


指導資料

学習評価 第3号

 鹿児島県総合教育センター
令和3年10月発行

対象
校種

高等学校
特別支援学校



高等学校における学習評価の改善・充実に向けてⅢ —よくある質問から—

令和4年度以降に入学する生徒から、観点別学習状況の評価を指導要録に記載することになるなど、高等学校においては学習評価の改善・充実が喫緊の課題となっている。現在、当センターにも学習評価に関する様々な質問が寄せられているところである。そこで、本稿ではよくある質問に対する回答を示すことを通して学習評価に関する基本的な考え方を確認したい。

令和3年8月、国立教育政策研究所から『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の高等学校編（以下「参考資料」と表す。）が公表され、各学校でも新学習指導要領の実施に向けての準備が本格化している。本稿では、生徒の学習評価についてよくある質問に答える形式で考え方を示す。

なお、本稿の回答部分では、3観点を知識・技能（知識及び技能）は「**知技**」、思考・判断・表現（思考力、判断力、表現力等）は「**思判表**」、主体的に学習に取り組む態度は「**態度**」と「」付きで表記する。また、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」を「**改善等通知**」、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」を「**報告**」と示す。



Q1 自分の担当する教科の3観点がよく分からず不安です。まず何から始めればよいですか。



A1 各教科等の「**知技**」、「**思判表**」については、学習指導要領（平成30年告示）の「**内容**」及びその解説に掲載されていますので、**まずは学習指導要領**

及び解説を参照してください。

また、「**知技**」、「**思判表**」に加えて「**態度**」についても、「**参考資料**」にどう評価すべきか、事例を含めて掲載されています。ぜひ参照してください。



Q2 定期考査等のペーパーテストでは、「**知識・技能**」、「**思考・判断・表現**」のどちらを測る問題か、明示して出題すべきでしょうか。



A2 定期考査等においては一般的に「**知技**」、「**思判表**」のどちらに関する出題が明確にして出題する必要があります（「**知技**」、「**思判表**」を一体的に測る問題もあります）。そのため、令和4年度入学生最初の定期考査を作成するまでに、「**知技**」又は「**思判表**」を評価する問題について出題方法を確認する必要があります。そもそも、「**指導と評価の一体化**」を実現するためには、単元等で目標とする「**知技**」、「**思判表**」を明確にして指導を行い、評価を行うことが求められます。

「**知技**」、「**思判表**」を問う問題については、「**参考資料**」の高等学校及び中学校の第3編の事例や、中学生対象に行われた「**全国学力・学習状況調査**」の問題等が参考になります。

なお、大学入学共通テストは「知技」を活用して「思判表」を評価する問題であると考えられます。



Q 3 「主体的に学習に取り組む態度」のみを取り出して評価できますか。



A 3 「態度」のみを取り出して評価するのは適当ではありません。

3 観点については、各教科等の観点の趣旨に照らし、『「態度」をもって、獲得した「知技」を活用して、「思判表」を達成する。』ものと考えられています。「態度」については、一連の粘り強い取組の中で、学習を自己調整しようとしているかどうかという意思的な側面を評価します。この観点のみを取り出して、例えば、挙手の回数や出席の状況などで「態度」を評価することは適当ではないと考えられます（「報告」参照）。



Q 4 これまで「平常点」として評価していたものをそのまま「主体的に学習に取り組む態度」として評価してよいですか。



A 4 いわゆる「平常点」をそのまま「態度」として評価することは適当ではないと考えられます。なぜ

なら、「平常点」として評価してきたものと「態度」の観点で評価するものは異なるからです。

これまで「平常点」として、課題の提出状況や小テストの結果、出席状況などが記録され、評価されていたかもしれません。

目標に準拠した評価における「態度」に関しては、目標の達成に向けて「知技」を習得したり、「思判表」を育成したりする場面に関わって、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況を判断材料の一つとして用いつつ、「知技」や「思判表」の各観点の状況を踏まえて評価する必要があります。



Q 5 課題の提出状況や小テストの結果は「主体的に学習に取り組む態度」で評価しないのですか。



A 5 「態度」で評価するかどうかは場合によります。例えば、単元目標を達成するための習得すべき知識を小テストで評価する場合は、「態度」ではなく、「知技」として評価します。

また課題として、単元等の目標を達成するのに必要なもの（例えば課題が授業の発表で用いるポスターの作成等）を課したのであれば、その取組状況を「態度」の評価の判断材料とすることは可能ですが、その際も、単に課題の提出状況のみを見取るのではなく、自己調整しつつ粘り強く行った取組の一環であるかどうかを評価することになります。

なお、例えば自らが希望する大学の入学試験の過去問題を解く課題を課した場合は、内容が教科・科目で扱う単元の目標と一致しておらず、問題を解くのに必要な考え方や知識等を授業で扱っていないければ、「指導と評価の一体化」の観点からは、評価すべき課題とは考えられないので、評価できません。あくまでも目標と関連付けられたものであることを踏まえて評価の判断材料とします。

とはいえ、過去問や過去問の類題を解く、漢字や古語、英単語を単語帳などで覚える、長期休業中の課題に取り組むことなどは、本人の進路選択の実現という観点からはとても大事なことです。一つの単元で捉えるのではなく、教科・科目の目標を達成するための長期的な粘り強い学習と捉え、計画や見直し、振り返りを含めて指導を行い、学期末や学年末で「態度」の評価の材料とすることは可能かもしれません。又は、実力考査などと同じように、「記録に残す評価」には含めずとも、本人の進路目標の実現に大事なこととして捉え、計画的な取組ができるよう、本人の支援を行う必要は大いにあると考えられます。



Q 6 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「知識・技能」や「思考・判断・表現」の評価と大きな差があることはありますか。



A 6 一般的にはありません。単元の導入の段階では観点別学習状況にばらつきが生じるとしても、

指導と評価の一体化を考慮しつつ授業を展開することで、単元末や学期末、学年末等の結果として算出される観点別学習状況の評価は、観点ごとに大きな差は生じないと考えられます。もし指導の過程で大きな差が生じたら、生徒の実態や教師の授業の在り方など、その原因を検討し、生徒への支援を行い、生徒の学習状況や教師の指導の改善を図るなど速やかな対応が求められます。そのため、「知技」、「思判表」、「態度」の各観点をまとめた結果、学期末、学年末等に「CCA」や「AAC」といった各観点の大きな差が生じることは一般的ではないと考えられます(「報告」参照)。



Q 7 これまでと同様に「評点」を用いて評定を算出してもいいですか。



A 7 評点を用いるのではなく、観点別学習状況の評価を基に評定を算出するのが一般的と考えられます。

「改善等通知」では、「評定は各教科・科目の学習の状況を総括的に評価するものであり、『観点別学習状況』において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科・科目の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。」(太字・下線部筆者)とされています。

また、「参考資料」の第1編に「観点別学習状況の評価に係る記録の総括」(p. 17)の観点別学習状況の評価に係る記録が複数ある場合の総括方法が掲載されています。例えば単元等で「記録に残す評価」として記録した「知技」の結果が「ABB」ならば、学年末では

「B」とするなどの方法です。

さらに p. 18 に「観点別学習状況の評価の評定への総括」方法が掲載されています。上記の方法で総括された「知技」、「思判表」、「態度」の結果を A, B, C の組合せ、又は、A, B, C を数値で表したものに基づいて総括する方法です(仮に「AAA」ならば、学年末の評定では 5 とするなど)。

以上のことから、評点ではなく、観点別学習状況の評価をもとに評定を算出するのが一般的と考えられます。特に「態度」については、単元等の評価規準を基に評価するよう「参考資料」の事例では示されています。以上のことを考慮の上、評定の算出の適切な方法について各学校で定めてください。



Q 8 観点別学習状況の評価「ABB」などを学年末に「評定」へ総括する際に、「知技」、「思判表」、「態度」を 1:1:1 ではなく、1:2:1 とするなど、3 観点を軽重を付けてもよいでしょうか。



A 8 一般的には、年間を通じては、観点において軽重を付けることはないと考えられます。

学習指導要領(平成 30 年告示)の第 1 章総則に「教育課程の編成にあたり、『生徒の人間として調和のとれた育成』を目指すこと」、そして「学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。」(太字・下線部筆者)とされており、一つの観点到偏ることなく、年間を通じて 3 観点をそれぞれバランスよく育成すべきことに留意する必要があることから、学年

末において、3観点に軽重を付けて「評定」への総括をすることは慎重にすべきだと考えられます。



Q 9 特別活動の評価はどのようになればよいですか。



A 9 教員間での評価に関する共通理解と情報交換、振り返りシートやキャリア・パスポートの活用が大事になります。

特別活動の評価は、内容のまとめりとして「ホームルーム活動」、「生徒会活動」、「学校行事」が挙げられています。その各活動又は行事において学校で定めた3観点で評価し、総合的な評価で十分満足できる活動の状況がみられた場合に指導要録に「○」をつけます。

例えば、特別活動の「参考資料」の第3編第2章の事例3では、生徒会活動としてホームルーム活動での役員決め、放課後の委員会、生徒総会に向けた活動、生徒総会などの場面における指導や評価の例が載っています。担任や行事担当の先生で補助簿等を活用して情報交換を密にして評価したり、振り返りシートやキャリア・パスポートを用いて、その振り返りを基にした面談等でのプレゼンテーションなどを活用したりして評価することなどが考えられます。

どのような姿があれば、十分満足できる活動の状況となるか、学校で共通理解を図り、新学期を迎える必要があります。



Q 10 指導要録だけでなく、通知表にも観点別学習状況を記載した方がよいですか。



A 10 通知表にも観点別学習状況は記載した方が望ましいと考えられます。通知表は、生徒の学習状況を生徒・保護者に対して伝えるものであり、法令上の規定や、様式に関して国として例示したものはなく、各学校で定めるものです。

しかし、「改善等通知」では学習評価の改善

の基本的な方向性として「児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと」とされています。生徒本人や保護者に適切に伝えられることで、初めて生徒の学習の改善に生かされ、通知表を通して、保護者との間でも評価に関する情報共有を充実させることができます。結論としては、今後の学習改善に生かす、情報共有を行うという2点から、通知表にも観点別学習状況の記載があることが望ましいと考えられます。



Q 11 観点別学習状況の評価を基に評定をつけることについて、生徒や保護者に配布する文書例はありますか。



A 11 令和4年度からの入学生及び保護者には、趣旨や観点別学習状況の評価「A、B、C」や5段階評価についての説明と通知表の変更等について周知する必要があります。

1年生の保護者に新学期に配付する文書の例を当センターのWebサイトで公開しています。右の2次元コード又は下のURLで参照ください。



<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/hyouka/kannren/hs/top.html>

—引用資料、参考資料—

- 国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価の参考資料』高等学校 <https://www.nier.go.jp/kaiatsu/shidousiryoku.html>（令和3年8月30日閲覧）
- 国立教育政策研究所（2021）「全国学力・学習状況調査 <https://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>（令和3年8月30日閲覧）
- 中央教育審議会（2019）「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
- 文部科学省（2019）「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

（教科教育研修課 有嶋宏一）

(保護者宛文書例)

令和4年4月〇〇日

1年保護者各位

〇立〇〇高等学校
校長 〇〇 〇〇

「観点別学習状況の評価」に基づく成績通知について(お知らせ)

春暖の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のことと存じます。また、かねてより、本校の教育活動に対しまして御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、令和4年度入学生から年次進行で「新学習指導要領」に基づいた教科の学習が始まることを受け、本校では本年度1年生より期末及び学年末の成績を観点別学習状況に基づく評価及び5段階評定により、下記のとおり通知することとしましたので、お知らせいたします。

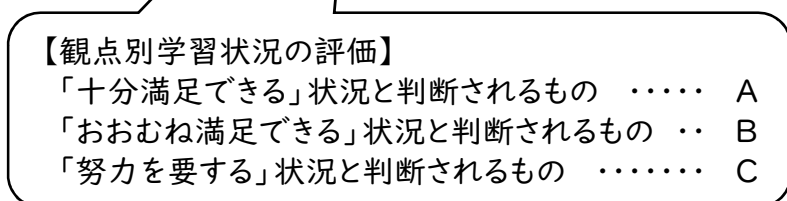
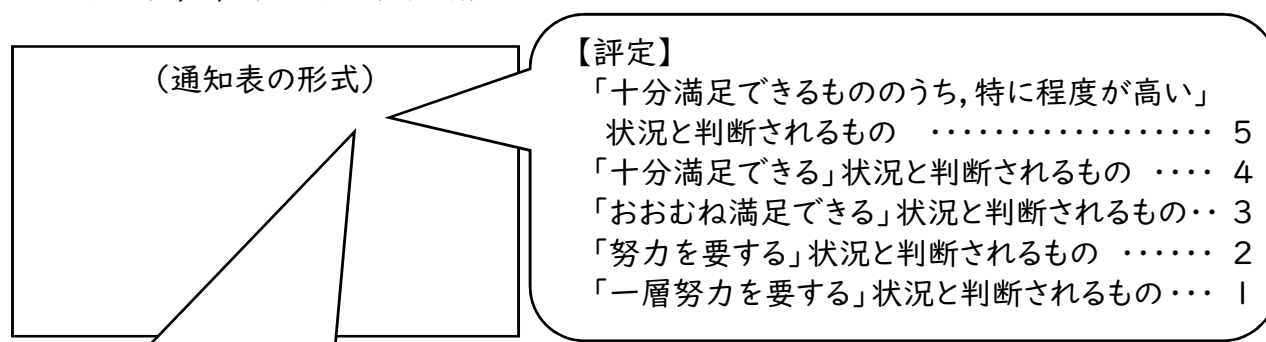
記

1 趣旨

各教科等の目標の実現状況を、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づいて判断し、学期末及び年度末の成績を示すこととします。

2 通知表の見方

これまでの本校の通知表では、評定を5段階で示していましたが、新1年生の通知表から、当該教科・科目の目標や内容に照らして、その実現状況について、新しい3つの観点別学習状況の評価(A, B, C)と評定(5段階)の2つを示します。



3 活用方法

生徒本人が学習への取組状況を振り返り、目標をもって学習を進めるための参考として御活用ください。なお、各教科・科目の観点の目標や評価規準は、年間指導計画(シラバス)に「目標」、「評価規準」として示してあります。

4 その他

御質問や御意見がありましたら、担当まで御連絡ください。

【担当】 教頭 〇〇, 教務部 〇〇
電話 099-123-4567
メール abcd@edu.pref.kagoshima.jp